

タイトル	献辞 小島康次教授略歴・研究業績
著者	石嶋，芳臣；大平，義隆
引用	北海学園大学経営論集，15(3)
発行日	2018-03-25

献 辞

経営学会長 石 嶋 芳 臣
経営学部長
経営学研究科長 大 平 義 隆

小島康次先生におかれましては、2018（平成 30）年 3 月 31 日をもってご退職されることとなりました。先生のご退職にあたり、経営学部・経営学研究科ならびに経営学会は、これまでに先生から賜ったご指導とご厚誼とに深甚なる謝意を表すため、退職記念論文集の刊行を企画いたしました。ここに謹んで本書を先生に献呈いたします。

小島先生が乞われて北海学園大学に教養部助教授として赴任されたのは、1989（平成元）年 4 月のことでした。当時の北海学園大学は経済学部、法学部及び工学部の 3 学部のほか、大学全体の一般教育課程を統括する教養部から構成されていました。小島先生が赴任した当初は、授業科目として「教育心理学」を主とした教職課程をご担当され、「認知心理学」、「臨床心理学」、「認知発達心理学」等、ご担当科目を拡充することで、教職課程教育の充実に貢献されました。その後、1991（平成 3）年大学設置基準の改正（大綱化）により、本学も 1997（平成 9）年度をもって教養部を廃止することとなり、この改組転換に伴って、経済学部、経営学部と所属先は変わられたものの、29 年余りにわたって、一貫して本学の教育に多大なご貢献をなさると共に、精力的に研究を進めて来られました。

周知のように、経営学部は経済学部経営学科を母体として、北海学園大学の 5 つめの学部として設置されましたが、はじめに学部構想が全学的に承認されたのち、教員組織の充実のためとして、それに先立って大学院経営学研究科の設置が求められることとなりました。小島先生は、2002（平成 14）年 4 月から経営学研究科において、「認知発達心理学特殊講義・同演習」、「発達心理学特殊研究」等を展開され、これまでに数多くの大学院生を育成なさってきました。翌 2003（平成 15）年 4 月に設置された経営学部においては、「認知心理学」、「生涯発達心理学」、「心理学概論」、「心理学実験実習」に加えて、複数の演習科目をご担当され、学部開設時のカリキュラム設計からその実現に至るまで、一貫して、経営学部における心理学教育の充実に取り組んで来られました。

このように小島先生は、経営学部の立ち上げにおいて重要な役割を果たされ、その草創期において、本学市民公開講座のコーディネイターを 2 年続けてお引き受けになり、「ヒューマン・エラー」に関する連続講座を主宰されました。この企画は、高校生のみならず、一般市民に対しても、本学に新設された経営学部において本格的な心理学教育が展開されていることを周知する貴重な機会となりました。現在でも、心理学の修得を目指して、経営学部 2 部および大学院経営学研究科に入学してくる社会人学生、特に現役の医療技術者が多数いますが、その契機をたどると、小島先生を中心とした、当時の並々ならぬ努力があったことに思い至ります。また、「認定心理士」資格取得に要するカリキュラムの充実に多大なご尽力を賜り、全国的にも類を見ない、極めてユニークな経営学分野における心理学教育の確立に主導的な役割を果たして来られました。先生の誰に対しても分け隔てなく温厚に対応される清廉なお人柄は、先生に接する機会のあった学生・教職員にとって、人生の中で出会うことができた数少ない尊敬でき

る師であり先生が育てられた院生、学生は、社会に期待される人材として一層活躍することでしょう。

また、小島先生は、長年にわたって、多数の学内委員会委員をお務めになられましたが、特に、本学において長く実現が期待されてきた学生カウンセリング室の立ち上げに際して、主導的な役割を果たされ、初代の学生カウンセリング運営委員会委員長にご就任頂きました。現在の学生カウンセリング体制が、小島先生の奮励努力の上に成り立っていることを、我々は将来に渡って忘れることはできませんし、志を引き継ぐ者として深く記憶されるべきです。また、2011（平成 23）年度から 2 期 4 年間にわたって、北海学園大学附属図書館長に選出され、図書館の現代化に尽力されました。いずれも、そのご尽力の一部は現実のものとなりましたが、引き続きその充実をはかることは、私達全体の責務でもあります。

一方、小島先生が研究者として遺されたご功績についても触れておかねばなりません。

小島先生のご研究の焦点は、一貫して、発達（とりわけ認知発達）と教育に当てられています。人間をはじめとする生物の発達という現象が、多数の要因下で生ずる複雑な質的变化・展開である以上、その研究には常に方法論上の問題を伴います。小島先生のご関心が、当初から、Jean Piaget に向かうのは極めて自然なことでしたが、その時期が、ちょうど日本における認知科学の黎明期であったことも、先生のご研究に大きな影響を及ぼしていると考えられます。1987（昭和 62）年に刊行された先生の最初の単著には、「ピアジェ理論への新たな視点」という副題が添えられ、古代ギリシャ哲学から、当時の認知心理学の最新のトピック、プロトコル分析や思考のシミュレーション等の質的なアプローチ、そして、Ludwig von Bertalanffy の一般システム理論への言及も見られます。複雑な現象を理解するためには、既存の心理学の枠組を超える方法論を必要とするという小島先生のお考えは、歴史的視点の重視と共に、その視座が常に学際的であることにつながります。

こうして蓄積された先生のご見識は、複数の学会で高い評価を得て、多数の学会で要職に就かれることとなります。また、2004（平成 16）年 10 月に北海道心理学会第 51 回大会、2009（平成 21）年 9 月に日本質的心理学会第 6 回大会を誘致され、いずれも準備・実行の責任者をお務めになりました。2015（平成 27）年 4 月からの 4 年間は、北海道心理学会の学会長を務められるなど、先生のご活躍は、北海道に根ざす学会から海外に拠点を持つ国際学会にまで及ぶ、まさにグローバルなものであります。さらに、小島先生は地域からの要請に応じて、ご自身の研究成果を社会に還元することにも尽力して来られました。北海道家庭生活総合カウンセリングセンターにおける研修講座の講師を長年に渡りお引き受けになるなど、先生は、ご多忙の中、こうした組織に対する支援にもご尽力してこられました。

最後に、小島先生への感謝の気持ちを一言では言い表すことは到底できませんが、経営学部および経営学研究科に賜りましたご貢献に対して教職員一同、あらためて御礼申し上げます。ご退職後も非常勤講師としてご協力を賜りますが、くれぐれもお体をご自愛いただきまして、大学院と学部の今後を暖かく見守り、お導きください。

なお、本書の刊行にあたっては、学内外のゆかりの方々にご寄稿をお願いし、ご快諾を賜って玉稿を収載することができました。また、本書の企画と編集については、田村卓哉教授をはじめ、論集委員の今村聡教授、鈴木修司教授、ほか多くの方々にご尽力いただきました。

ここに厚く御礼申し上げます。

平成 30 年 3 月末日



小島康次教授

小島康次教授 略歴・研究業績

小島康次（昭和 24 年 8 月 11 日生）

学 歴

昭和 50 年 3 月 北海道教育大学小学校課程卒業（教育学士）
昭和 51 年 3 月 北海道教育大学教育学専攻科修了
昭和 55 年 3 月 北海道大学大学院教育学研究科修士課程修了（教育学修士）
昭和 58 年 3 月 北海道大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学

職 歴

昭和 58 年 4 月 札幌大学女子短期大学部専任講師
昭和 60 年 4 月 札幌大学女子短期大学部助教授
昭和 61 年 4 月 北海道大学兼任講師
平成 元 年 4 月 北海学園大学助教授 教職課程担当
平成 元 年 4 月 札幌学院大学兼任講師
平成 元 年 4 月 札幌大学女子短期大学部兼任講師
平成 2 年 9 月 カナダ・アルバータ州立レスブリッジ大学交換教授
平成 4 年 4 月 北海学園大学教授 教職課程担当
平成 8 年 4 月 札幌大学兼任講師（～現在に至る）
平成 8 年 4 月 北海道医療大学大学院兼任講師
平成 8 年 4 月 北星学園大学兼任講師（～現在に至る）
平成 10 年 3 月 アメリカ合衆国マサチューセッツ州クラーク大学訪問研究員
平成 10 年 4 月 北海学園大学経済学部 教授
平成 14 年 4 月 北海学園大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程 教授（～現在に至る）
平成 15 年 4 月 北海道大学大学院教育学研究科修士課程 兼任講師
平成 15 年 4 月 北海学園大学経営学部 教授（～現在に至る）
平成 18 年 4 月 北海学園大学経営学研究科経営学専攻博士課程 教授（～現在に至る）
平成 18 年 7 月 カナダ・オンタリオ州トロント大学 訪問研究員
平成 19 年 4 月 札幌国際大学大学院心理学研究科 兼任講師（～現在に至る）
平成 28 年 4 月 北海道文教大学国際言語学科 兼任講師（～平成 29 年 3 月まで）

所 属 学 会

日本心理学会，日本発達心理学会，日本教育心理学会，日本質的心理学会，国際ピアジェ学会，北海道心理学会 他

著 書

昭和 57 年 6 月（共著）「児童心理学の進歩 XX I」 金子書房

- 昭和59年4月（共著）北海道教職課程研究会編「教育心理学」 学術図書出版社
- 昭和62年6月（共著）「児童心理学の進歩XX VI」 金子書房
- 昭和62年7月（共著）認知発達の理論と展望 ―ピアジェ理論への新たな視点― 青弓社
- 昭和63年7月（共著）理解とふれあいの心理学 ミネルヴァ書房
- 平成元年7月（共著）森上・柴崎監修保育学講座 無藤・柴崎編「児童心理学」 ミネルヴァ書房
- 平成元年10月（共著）新しい教育心理学の構図 共同出版
- 平成3年4月（共著）三宅和夫編著「乳幼児の人格形成と母子関係」 東大出版会
- 平成3年4月（共著）新・児童心理学講座第1巻「子どもの発達の基本問題」 金子書房
- 平成4年5月（共著）東洋他編「発達心理学ハンドブック」 福村出版
- 平成4年10月（共著）「熟年からの心と体の健康学」 中央法規出版
- 平成5年7月（共著）札幌大学女子短大25周年記念論文集「地域・文化・社会」 響文社『札幌大学女子短期大学部25周年記念出版会編』
- 平成6年5月（共訳）S. ケアリー著 子どもは小さな科学者か ―ピアジェ理論の再考― ミネルヴァ書房
- 平成9年3月（共訳）A. カミロフ＝スミス著 人間発達の認知科学 ―精神のモジュール性を越えて― ミネルヴァ書房
- 平成13年7月（共著）日本児童研究所編「児童心理学の進歩」（2001年版） 金子書房
- 平成14年8月（共著）シリーズ・臨床発達心理学第二巻『認知発達とその支援』 ミネルヴァ書房
- 平成17年12月（共著）人工知能学事典 共立出版
- 平成18年5月（共訳）J. パーナー著 発達する〈心の理論〉―4歳：人の心を理解するターニングポイント― ブレーン出版
- 平成20年6月（共著）心理学におけるダイナミカルシステム理論 金子書房
- 平成21年2月（共著）縦断研究の挑戦―発達を理解するために 金子書房
- 平成23年6月（共著）社会で生きる心理学 ミネルヴァ書房
- 平成25年3月（共著）発達心理学と隣接領域の理論・方法論〔発達科学ハンドブック1〕 新曜社
- 平成25年6月（共著）発達心理学辞典 丸善
- 平成25年9月（共著）質的心理学ハンドブック 新曜社
- 平成26年1月（共著）「創造性」を育てる教育とマネジメント 同文館出版
- 平成28年7月（共著）新発達心理学ハンドブック 福村出版

論 文

- 昭和54年3月（単著）文と絵の記憶におけるイメージ化と言語化の発達（修士論文）（査読付） 北海道大学大学院教育学研究科
- 昭和54年6月（共著）An ecological study of family relationships and child development in a rural community（「農村における家族関係と子どもの発達に関する生態学的研究」）（査読付）『北海道大学教育学部附属乳幼児発達臨床センター年報』29頁～44頁

- 昭和 55 年 3 月 (単著) 文と絵の記憶におけるイメージ化と言語化の発達 (査読付) 『北海道大学教育学部紀要』第 36 号 227 頁～237 頁
- 昭和 55 年 6 月 (共著) 幼児の認知過程における方法と概念化 (査読付) 『心理学評論』第 23 巻 1 号 59 頁～70 頁
- 昭和 56 年 6 月 (共著) Childre's reconstruction of serial picture. (系列的再構成課題における幼児の表現スタイルについて) (査読付) 『北海道大学教育学部附属乳幼児発達臨床センター年報』1979-1980 53 頁～63 頁
- 昭和 56 年 6 月 (共著) A developmental study of the effects of visual and verbal coding on recognition memory. (再認記憶課題におけるイメージ化と言語化の発達の研究) (査読付) 『北海道大学教育学部附属乳幼児発達臨床センター年報』1979-1980 23 頁～32 頁
- 昭和 57 年 3 月 (共著) Family socialization in a rural farming community: Analysis of parental behavior and interactional styles (農村における幼児の社会化について) (査読付) 『北海道大学教育学部附属乳幼児発達臨床センター年報』1980-1981 45 頁～56 頁
- 昭和 58 年 3 月 (共著) 社会的知識の獲得過程における諸問題 (査読付) 『北海道大学教育学部紀要』第 42 号 125 頁～146 頁
- 昭和 59 年 3 月 (単著) 認知科学における発達理論 『札幌大学女子短期大学部紀要』第 23 号 1 頁～10 頁
- 昭和 59 年 3 月 (単著) 認知発達研究における制約—理論の可能性と精神のモジュール性 『札幌大学女子短期大学部紀要』第 24 号 61 頁～68 頁
- 昭和 61 年 2 月 (単著) 認知科学における方法論の検討—プロトコル分析を中心として— 『札幌大学女子短期大学部紀要』第 27 号 81 頁～90 頁
- 昭和 61 年 9 月 (単著) 社会的相互作用の認知的モデル化のためのケース・スタディー—授業場面における社会的相互作用に係わる要因について— 『札幌大学女子短期大学部紀要』第 28 号 27 頁～42 頁
- 昭和 63 年 2 月 (単著) 物語理解に含まれる一般的言語的コミュニケーションの原型について (Ⅰ) 『札幌大学女子短期大学部紀要』第 31 号 27 頁～32 頁
- 平成 元年 9 月 (単著) 物語の理解と教授 (査読付) 『ディスコースプロセス研究』第 1 巻 2 号 15 頁～22 頁
- 平成 元年 12 月 (単著) 物語理解に含まれる一般的言語的コミュニケーションの原型について (Ⅱ) (北海学園大学学術研究会) 『学園論集』第 64 号 33 頁～39 頁
- 平成 3 年 6 月 (単著) 仮想世界のモデルと知識 (査読付) 青土社『現代思想』19 巻 6 号 150 頁～156 頁
- 平成 7 年 3 月 (単著) 物語理解に含まれる一般的言語的コミュニケーションの原型について (Ⅲ) (北海学園大学学術研究会) 『学園論集』第 83 号 1 頁～9 頁
- 平成 9 年 3 月 (単著) 物語理解に含まれる一般的言語的コミュニケーションの原型について (Ⅳ) (北海学園大学学術研究会) 『学園論集』第 91 号 81 頁～90 頁
- 平成 12 年 3 月 (単著) 中学生の物語文にみる“いじめ”の構造—心理学的メズムと記号論的アプローチ— (北海学園大学開発研究所) 『開発論集』第 65 号 97 頁

～111 頁

- 平成 12 年 9 月（単著）物語理解に含まれる一般的言語的コミュニケーションの原型について（Ⅵ）（北海学園大学学術研究会）『学園論集』第 105 号 75 頁～87 頁
- 平成 13 年 9 月（単著）物語理解に含まれる一般的言語的コミュニケーションの原型について（Ⅶ）（北海学園大学学術研究会）『学園論集』第 109 号 87 頁～94 頁
- 平成 16 年 4 月（単著）組織心理学の理論的可能性について—ダイナミカルシステムズ・アプローチをめぐる一考察—（北海学園大学経営研究会）『経営論集』第 1 巻 4 号 153 頁～162 頁
- 平成 16 年 6 月（単著）物語理解に含まれる一般的言語的コミュニケーションの原型について（Ⅷ）（北海学園大学学術研究会）『学園論集』第 120 号 7 頁～21 頁
- 平成 16 年 10 月（単著）人間関係論による“いじめ”構造の分析—遺書の解釈を例として—（北海学園大学開発研究所）『開発論集』第 74 号 71 頁～84 頁
- 平成 18 年 3 月（単著）「病い」への人文・社会科学的アプローチ（指定討論 1：英文）（立命館大学人間科学研究所）『ヒューマンサービスリサーチ』第 1 号 109 頁～111 頁
- 平成 18 年 3 月（単著）『ヒューマンエラーの心理学—ヒトはなぜ誤るのか』を企画して一研究者は市民・現場に何を提供できるのか？（北海学園大学経営研究会）『経営論集』第 3 巻 3・4 合併号 109 頁～112 頁
- 平成 18 年 3 月（単著）ダイナミカルシステムズ・アプローチからみたヒューマンエラー研究へのヒント（北海学園大学経営研究会）『経営論集』第 3 巻 3・4 合併号 149 頁～154 頁
- 平成 18 年 5 月（単著）人間関係論による“いじめ”構造の分析—遺書の解釈を例として—（査読付）ネット・ジャーナル『プロメテウス』創刊号 23 頁～37 頁
- 平成 18 年 5 月（単著）誤解を生み出す文脈—子供から詐欺師まで（北海学園大学経営研究会）『経営論集』第 4 巻 4 号 89 頁～101 頁
- 平成 18 年 12 月（単著）中学生の物語文にみる“いじめ”の構造—心理学的メカニズムと記号論的アプローチ（査読付）ネット・ジャーナル『プロメテウス』第 2 号 15 頁～30 頁
- 平成 25 年 12 月（単著）物語理解に含まれる一般的言語的コミュニケーションの原型について（Ⅸ）（北海学園大学学術研究会）『学園論集』第 158 号 27 頁～37 頁
- 平成 26 年 3 月（単著）物語理解に含まれる一般的言語的コミュニケーションの原型について（Ⅹ）（北海学園大学学術研究会）『学園論集』第 159 号 165 頁～173 頁
- 平成 26 年 6 月（単著）物語理解に含まれる一般的言語的コミュニケーションの原型について（Ⅺ）（北海学園大学学術研究会）『学園論集』第 160 号 1 頁～10 頁
- 平成 26 年 9 月（単著）発生的記号論序説Ⅰ—発達心理学における生得—経験論争—（北海学園大学学術研究会）『学園論集』第 161 号 19 頁～28 頁
- 平成 26 年 12 月（単著）発生的記号論序説Ⅱ—発達研究における領域固有性 vs. 領域一般性—（北海学園大学学術研究会）『学園論集』第 162 号 1 頁～19 頁
- 平成 27 年 3 月（単著）発生的記号論序説Ⅲ—目的合理性 vs. 規範的合理性—（北海学園大学

小島康次教授 略歴・研究業績

学術研究会)『学園論集』第 163 号 1 頁～14 頁

平成 28 年 3 月 (単著) 自己組織化としての認知発達—発達的变化の連続性と不連続性を超えて— 北海学園大学学園論集第 163 号 1 頁～23 頁

平成 28 年 6 月 (単著) 発生的記号論序説Ⅳ—記号の身体性にかんする人類史的考察— 北海学園大学学園論集第 168 号 13 頁～21 頁